

歴史学的視点から、障害者の " 生 " を多面的にとらえ、
障害史研究の最先端の成果と歴史学の課題を追求する。

史学会シンポジウム叢書 障害者と歴史学

池田嘉郎・北村陽子＝編

A5 判 272 頁 ISBN:978-4-634-52371-5 C3021
定価 4,950 円 (本体 4,500 円)



※書影は制作中のものです。

歴史（学）上の障害者をテーマとした 8 本の論考と、障害史研究の動向と課題をまとめた 2 本のコラムを収録。

障害者は歴史上どこにでもいる人々であるが、歴史研究において彼らの姿が十分に意識されてきたとはいえない。史料においても歴史家の仕事においても、障害者は不可視化され、いわゆる「健常者」が歴史叙述の中心に置かれてきた。これは、歴史上、障害者が置かれた境遇を反映しているだけでなく、歴史研究のそうした状況自体が、社会における障害者の周縁化の一部をもなしている。

歴史上、障害者の置かれた立場には、社会規範・家族・医療・市民運動・国家による身体管理など、多様な事項が関係し、どういう人が「障害者」に区分けされるのか自体が、これらの事項と深くからみあった歴史的産物である。自己表現に制約をもつ人々が、自分の力で、また周囲の人々とともに生きてきた、その姿に向き合うことは人文学としての歴史学の課題であり、本書は、歴史（学）上の「主体」としての障害者の姿に目を向ける。

2024 年史学会大会シンポジウムをもとに編集。



山川出版社

TEL : 03-3293-8131

FAX : 03-3292-6469

※新刊配本に間に合いますよう、
お早めのご注文をお願いいたします。

11/11
新刊受注×切
(火)

番線印	
ご注文数	冊 (ご担当名 :)